

伝統文化を体験する～落語の体験～

5歳児 ぞう組



2026年1月20日 午前10時15分～45分

子ども達に日本の伝統文化を伝えていきたいとの思いから、プロの落語家を招き、子ども達に聞いてもらう体験をしました。

松竹芸能の落語家 笑福亭 茶光さんが来園し、5歳児に落語の所作を教えてもらい、扇子や手ぬぐいといった持ち物を紹介してくれました。机2台に緋毛氈をかけ、座布団をのせ、高座を用意。舞台向かって右には、名前を書いた「めくり」を用意。左には、太鼓を準備しました。

準備物 ラジカセ、机2台、緋毛氈、座布団、小唄のCD、めくり、太鼓、手ぬぐい、扇子

子どもの活動

舞台が開いて、黒の和服を着た茶光さんが現れると目が釘づけになりました。茶光さんが、落語に使う扇子や手ぬぐいを出して、手ぬぐいが本や漫画、手紙に見えてくること。そして、扇子は、刀やお箸に見えてくることを体験しました。子ども達は、茶光さんに教わって、扇子を使って、ラーメンやソバをすすってみました。扇子を持ってない手でお椀を持って、口へ熱い麺をすする様子をやってみました。それに続き、ダジャレを聞いたり、小話の中に何人もの人が出てくるのを分かりやすく教わりました。ダジャレで「かあちゃんパンツやぶけた。またさけた」のフレーズが子ども達には一番受けました。

最後に一人一人が前へ出て太鼓をたたきました。太鼓を「どん、どん、どんと来い。どん、どん、どんと来い」のリズムでたたくと、そのように聞こえるので不思議です。また、太鼓でお化けの出るところで「どんどんどんどん」とたたくと本当にお化けが出てくるように聞こえてくるので不思議でした。

子どもの様子

子ども達は、初めて体験した落語に興味を寄せて所作を真似したり、ダジャレを一緒に言ったりしていました。登場人物が2人、3人、4人、5人と増えていく話では、体の向きを右、左と変えることで、また声や姿勢を変えることで、それを表現していることを説明してもらいましたが、少し難しい内容でも、子ども達はよく聞いていました。

終わってから、「卒園式の後には、おうちの人にみんなが練習した落語を見てもらおうね。」という、楽しみにしている様子でした。

活動の振り返り

初めに、「絵本を読んでもらうことがあるよね。絵本のおはなしを聞いて想像するのと同じように、落語は、お話を聞いて想像します。」と言われました。子ども達は、おはなしを聞いて、よく想像できていました。初めて体験した落語ですが、茶光さんの話と表現が面白く、質問にも的確に答えられて最後まで、興味をもって体験することができました。

扇子を一人1本手に取ることができました。扇子を開けた経験のない子どももいましたが、開けることも経験できてよかったです。

後日、子ども達は、担任から落語絵本を数冊読み聞かせて読んでもらい、面白い落語の話をいくつか聞きました。



